

事 前 評 価 個 表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業実施期間	令和7年度～令和11年度（5年間）
事業実施地区名 (都道府県名)	(もがみむらやま) 最上村山森林計画区 (山形県)	事業実施主体	東北森林管理局 やまがた 山形森林管理署 やまがた もがみ 山形森林管理署最上支署
事業の概要・目的		<p>本事業は、山形県の中央部から北東部に位置する、山形市をはじめとする8市9町3村に所在する約18万4千haの国有林野を対象としている。</p> <p>本計画区は、北は神室山(1,365m)や雄勝峠などの山岳地帯、東は船形山(1,500m)や熊野岳(1,841m)などの奥羽山脈、西は最上地方の出羽山地に囲まれている。</p> <p>また、本計画区には優れた自然環境を有する地域が多く、野生生物の移動経路などを確保するための「奥羽山脈緑の回廊」や「鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊」が所在している。さらに、自然公園法（昭和32年法律第161号）に基づき「栗駒国定公園」、「磐梯朝日国立公園」、「蔵王国定公園」に指定されるなど、森林レクリエーション、保健休養の場として多くの人々に利用されている。</p> <p>本計画区の国有林野の96%が保安林に指定されており、水源涵養や土砂流出防備等に重要な役割を果たしている。また、県都山形市が位置していることから、水源涵養機能はもとより、森林の有する多面的機能の高度な発揮が期待されている。</p> <p>林業・木材産業については、良質なスギ人工林を有する木材産地で、古くから林業生産活動が盛んな地域である。また、大規模集成材工場が操業を開始したほか、木質バイオマス発電施設が建設されるなど、木材需要が増加していることから、国有林からの木材の安定供給への期待が高まっている。</p> <p>森林の面積は、人工林を中心とする育成林が約40千ha、天然生林が約132千haとなっている。このうち人工林について、主な樹種はスギ(81%)となっており、齡級構成は、12齡級をピークとして、10齡級以上の林分が約8割であり、主伐、間伐を見据えた路網整備や主伐後の確実な更新とその後の保育が必要となっている。</p> <p>このため、本事業は、森林の有する水源涵養機能、土砂流出防止機能、保健文化機能、地球温暖化の防止などの公益的機能の持続的な発揮と併せ、木材の安定供給による地域の活性化にも貢献するため、地域特性や現地の状況、社会情勢及び事業評価の結果を踏まえ、植栽や間伐等の森林整備を積極的に実施するとともに、森林整備の効率的な実施に必要な路網を整備する。</p> <p>なお、事業実施に当たっては、伐採造林の一貫作業システムやコンテナ苗を活用した更新作業、下刈の省力化、列状間伐の実施等により低コストで効率的な作業を推進する。さらに、花粉の発生源となるスギ等の人工林の伐採・植替え等を促進す</p>	

	<p>るとともに、松くい虫やナラ枯れ被害等が発生しているため、森林被害の防止対策や林地の保全に配慮した森林施業や路網整備における木材利用の促進に取り組む。</p> <p>また、地元から、主伐後の再造林や保育作業での省力化・低コスト化等新たな取組の情報共有など官民の連携を強めること、森林病虫害の森林被害防止対策に関する意見があつたことから、関係機関と被害状況の情報共有を図るなど連携した取組を行うとともに、適切な森林被害の防止対策を講じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な事業内容 森林整備 更新面積 1,324ha 保育面積 10,926ha 路網整備 開設延長 20.02km 改良延長 1.53km ・総事業費 12,697,316千円（税抜き） 11,543,014千円
費用便益分析	<p>総便益（B） 43,208,818千円</p> <p>総費用（C） 16,482,110千円</p> <p>分析結果（B／C） 2.62</p>
森林管理局事業評価技術検討会の意見	効率的な森林整備と路網整備を適切に進めることにより、森林の有する公益的機能の発揮による生活環境の向上と木材生産等を通じた地域振興への寄与が期待されることから、事業実施の必要性が認められる。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 地球温暖化防止や国土保全、水源涵養等の公益的機能を発揮し事業の実施を通じて生産されるスギ・カラマツ等の木材を安定供給することにより地域の林業・木材産業に寄与することから、本事業の必要性が認められる。 ・効率性： 森林整備では、一貫作業システム、下刈の省力化等による低コストで効率的な作業システムの定着を図ることとし、路網整備では、開設・改良により森林整備箇所へのアクセス性や集材効率を向上させるなど、効率的な森林整備と路網整備を行うこととしており、費用便益分析の結果からも本事業の効率性が認められる。 ・有効性： 森林の現況や路網の整備状況を踏まえた事業内容であり、計画的な保育等の適切な森林整備や、これと連携した路網整備により、森林の有する公益的機能を十分発揮させるものとなっているほか、完了後の評価結果を踏まえた事業内容となっており、本事業の有効性が認められる。

費用便益分析及び各観点からの評価を踏まえ、新規採択チェックリストを用いて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の重視すべき機能の区分に応じた適切な森林整備が計画されているものと認められる。

様式1

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業(国有林)

都道府県名：山形県

施行箇所：最上村山森林計画区

(単位：千円)

大区分	中区分	評価額	備考
水源涵養便益	洪水防止便益	11,045,157	
	流域貯水便益	3,100,881	
	水質浄化便益	12,757,165	
山地保全便益	土砂流出防止便益	10,169,224	
環境保全便益	炭素固定便益	2,437,801	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	4,400	
	木材利用増進便益	19,443	
	木材生産確保・増進便益	1,675,993	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	1,998,754	
総便益 (B)		43,208,818	
総費用 (C)		16,482,110	
費用便益比		$B \div C = \frac{43,208,818}{16,482,110} = 2.62$	

参考

費用便益比 (i=0.02)	$B \div C = \frac{87,181,927}{23,278,141} = 3.75$
費用便益比 (i=0.01)	$B \div C = \frac{67,418,533}{20,421,131} = 3.30$

森林環境保全整備事業 最上村山森林計画区（山形県）

山形森林管理署 山形森林管理署最上支署

最上村山森林計画区位置図 (山形森林管理署) (山形森林管理署最上支署)



森林整備位置図



地拵



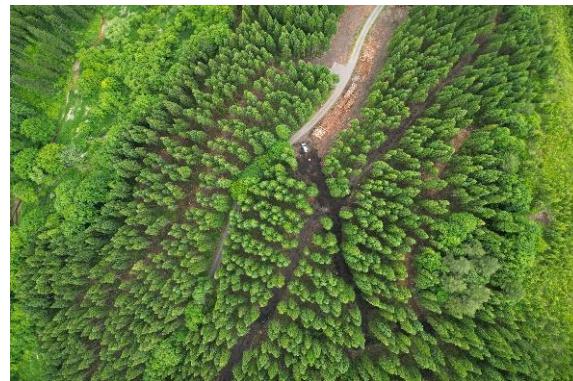
植付



林道（林業専用道）開設



間伐



下刈

